

授業科目名 <英訳>	中国哲学史(特殊講義) History of Chinese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 武田 時昌					
配当 学年	3回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	老子を読む										
【授業の概要・目的】											
<p>生き方、考え方の中国的パラダイムは、老子と易を思想源とする。老子は道教、易は儒教のそれぞれの聖典であったが、両書が主張する自然哲学、処世観はきわめて類似しており、道家と儒家、老子と孔子という学派的な対立の図式にあるというより、むしろ相補的な関係にあった。したがって、両書の読まれ方は、宗教哲学と政治思想という枠組みを逸脱して多角的、横断的であり、その往来、交差する場所に中国思想の基層構造が形成された。そこで、前期は老子の特色的な言説を選読しながら、古今の人々にどのように読まれてきたかを検討し、中国的思惟の本質を探る。</p>											
【到達目標】											
<p>ふとした瞬間につぶやいた老子のいくつもの言葉を、価値観さえも超えてしまうほどに読みこなし、東洋哲学の逆流の小径がどの場所につながっているかを思索しながら、「一而多、多而一」（一にして多、多にして一）という位相において、流れる水のごとく生きる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>老子には、無為自然の生き方を唱える「無」の哲学、文明史観や学問至上主義を痛烈に批判する「反」の哲学が展開されており、東洋のニヒリズムとして注目を集めるが、それだけではなく天寿を全うすることに価値観を置いた「生」の哲学も大いに主張される。そのような内容的な類別を踏まえて、毎回、老子を選読し、その自然哲学的な言説が後世に与えた影響を検討しながら、中国的思惟の構造的把握を試みる。</p> <p>本年度は、我々に告げられた「きっと何者にもなれない」という言葉が「自分らしく生きる」ことであると読み替えて、老子的な生命観、処世術に学ぶべき何かを探求する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点（出席よりも自主レポート等の学習意欲を重視する）。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学習（予習・復習）等】											
東洋的隠者になって長生術を実践する。											
（その他（オフィスアワー等））											
<p>旺盛な好奇心と豊かな発想による多種多様な読書活動を通して、文献読解と哲学的思索の界域を自由遊泳することを要望する。</p> <p>オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。</p>											